

2022年2月1日

幼保連携型認定こども園 **西神戸 YMCA 保育園 2月えんだより**

2月聖句：「その家に入ったら、平和があるように、と挨拶しなさい」

＜マタイによる福音書 10章 12節＞

この冬は、とても寒い日々が続きます。感染症が拡がり始める新年の幕開けになりましたが、不安に苛まれる方や病気で苦しむ方、孤立した人々が希望を失うことなく、必ず訪れる光ある日々が、一日も早く訪れることを心から願ってやみません。さて、寒さに負けない子ども達は、外で遊ぶことが大好きです。公園や園庭では大きな声をあげて、走り回っていますし、街を歩いていると、地域の方々から「寒いのに、どこ行くの?」「元気な子らやな。」と笑顔で声を掛けられています。こうした、ほんの少しの出会いですが、互いの心が温くなる瞬間を体験させていただけることに幸せを感じます。

「挨拶」という言葉には、相手の心を開き、心に近づくという意味があるそうです。その意味において、「挨拶をする」とは、自分の心を開き、相手の心を開かせ、相手の心に近づいていく積極的な行為といえます。「おはよう」「こんにちは」「いってきます」・・・等、挨拶することは当然のことと言われて育ちましたが、最近は不審者に間違えられては困るし、今は特に感染症を懸念して、知らず知らずに控えているのかもしれない。

「あなたは、大切な人ですよ」と伝える最良の手段であり、お互いのお蔭で生きていることを自覚し合う機会の切っ掛けともいえることすら失ってしまうと、人の中には「不信感」が備わってしまうかもしれません。

今月の聖句は、イエスが弟子達に、何の荷物を持つことも無く、病気の者や苦しむ者の家に行き、「あなたに平和があるように」、言い換えると「神様が、あなたを必ず守ってください。」と言って、抱きしめなさい、と言われました。当時は、病気の者等は、村の中ではよそ者とされる存在であり、孤独に苛まれる存在でしたが、そうした人々を探して、一人一人にそうしなさいと命令されました。イエスはどのような思いから言ったのでしょうか。それは、着飾ることなく、真の心から、人を尊び、愛おしみ、唯々目の前に居る人を愛する日々を送りなさいという意味ではなかったのでしょうか。そこには、互いに生まれる温かさ、人との交わりの中で生まれる喜び、人間の愛が宿り、生きる喜びを感じあえることを示唆されたのではないのでしょうか。まさに今、そしてこれから先に、とても大切なことではないかと思われまます。

年主題 『共に喜んで』 ～ すべての歩みの中 ～

2月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	いっしょに	力あわせて
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> * 知っていることばを使って思いを伝えようとする * 友だちや保育者と一緒にいることを喜ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> * 寒さの中でも守られているのちを知る * お互いの違いを認めつつ、助け合うことの喜びを感じる * 友だちと伝えあったり、話し合ったりしながら遊びを作り出す
讚美歌	つくしのよう	かなしいことがあってもこども改訂 1-31